


 日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

No.41

● ● ● 目 次 ● ● ●

・特集：IFFS/JSRM International Meeting 2015に参加して	1
・第13回学術集会のご案内	3
・生殖看護実践セミナー開催のお知らせ	4
・これから行われる学会・研修会情報（2015.7～2015.10）	5
・勉強会開催報告（関西地区）	6
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿	6
・もしも不妊看護の現場で行き詰ったら	7
・理事会報告	7
・選挙ご投票のお礼	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8



特 集

 第60回日本生殖医学会学術講演会および
 IFFS/JSRM international Meeting 2015に参加して

福井大学医学部看護学科 上澤 悦子

4月26日から29日の期間、横浜パシフィコにおいて、第60回日本生殖学術講演会と IFFS/JSRM international Meeting 2015の併催にポスター発表を目的に参加しました。

特に、IFFSは今年初めて日本で開催され、「生殖の医療の新しい洞察と革新、-アジアから、世界まで」が今回のテーマでした。国際学会のため英語主体の学術講演やシンポジウム、一般演題発表であり、全ての内容を理解することは困難でしたが、いまや第三者の明確な意思で関与する生殖医療はすでに当たりまえとなり、死後のドナーからの子宮提供、胎児からの卵巣組織提供、配偶子や胚の遺伝子操作などの非現実的な話題に、われわれはどう考えたらよいのか、何をすべきなのか、やや疲れた3日間でした。

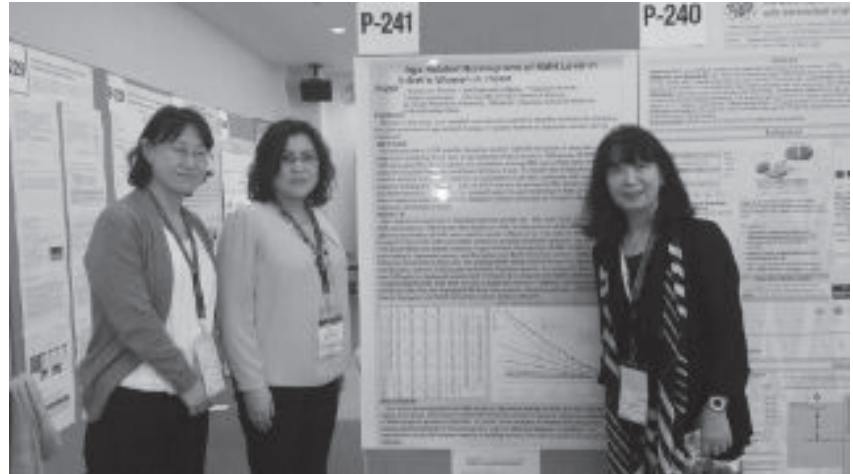
このように生殖医療が飛躍的に進歩するなか、前回ニュースレターにおいて、野澤理事長が学会の将来構想案を明らかにしましたが、「生殖看護」の役割は何か、誰を対象にどのような看護行為と定義できるのか、その成果はどう測るのかを明確にし、社会に発信する重要性を再考しました。時間的制限がある個々の生殖、カップルや家族全体を対象に次世代の健康支援を看護目的とした生殖看護のフレームワークを開発する時期は、まさに今であると実感しました。

いろいろ考えることが多い IFFS/JSRM でしたが、参加者は海外からの方も含め少ない印象でした。特に看

護職の参加者は少数と感じたが、他施設の生殖看護に関わるポスター発表を中心にゆっくり閲覧することができた期間でもありました。

ちなみに、わたしは日本人女性の Anti-Mullerian hormone (:AMH) レベルと年齢相関の推移をナノグラムで図示し、北欧・北米の女性の AMH 年齢別平均値 (Benny 2011) と比較した結果、日本人女性は高いレベルにあることを報告しました。

また、Maria (2014) らは白人女性の AMH レベルに比較し、ラテン系女性白人の AMH レベルは年齢層に関係なく低い値であったと述べているが、卵巣予備能の民族的相違はあるのか、どのような要素が関連しているかなど、今後の研究結果が楽しみです。



【会場にて、上澤（右）、第13回生殖看護学会学術集会長の定本さん（中央）、不妊症認定看護師の大石友美さん（左）】

学会参加報告

産業医科大学 實崎 美奈

今年の日本生殖医学会学術講演会は IFFS（国際生殖医学会）との共催であり、ゴールデンウィークの前半という例年とは異なる時期に開催されました。

今回の参加で最も印象に残ったのは、「家族をつくる」の著者である Ken DANIELS 先生も演者の1人となっていた倫理に関するトピックスセッションでした。このセッションでは DANIELS 先生の他に、スウェーデンの Claudia LAMPIC 先生、日本の久慈直昭先生からもご講演いただきました。非配偶者間人工授精は日本でも古くから実施されていたにもかかわらず、生まれてくる(きた)子どもへの「真実告知」や子どもの「知る権利」などの問題が解決方向にあるとは言い難い状況です。生殖補助医療の法制化ですべてが解決するわけではありませんが、解決の糸口となることが望まれます。

その他にも、子宮移植などの新しい生殖医療に関する講演やエビデンスに基づいた標準的な IVF に関する講演を聴き、ポスター発表でがん・生殖医療や患者ケア等の取り組みについて拝見したことで、より広い視野から日本の生殖看護について考える良い機会となりました。

講演や発表の多くが英語という制約があったためか、発表者や参加者に看護職が少ない印象を受けました。自分に取り組んでいる研究や臨床実践を周知するための学会発表、また自分の取り組みを振り返るための学会参加は、生殖看護を必要とする人々に還元できる何かを得る場として有用です。私自身、今後も積極的に学会発表や学会参加をしていきたいと感じました。

第13回日本生殖看護学会学術集会のご案内

地域・社会と未来に繋げる生殖看護

2015年9月13日（日）開催 岡山国際交流センター 岡山国際会議場

第13回の学術集会メインテーマは「地域・社会と未来に繋げる生殖看護」を掲げました。

日々進化する生殖医療に伴い生殖看護の担う役割はますます拡大してきています。地域や社会のなかで、将来を見据え、私たち生殖医療に携わる看護職に何が求められているのか、どのような看護活動をするべきか考える機会としたいと思います。開催地である岡山の地域専門家の取り組みや、医療機関連携の課題を紹介し、「未来に繋げる生殖看護」のための活発な意見交換ができるようプログラムの準備を進めております。皆様の参加をお待ちしております。

（会長 定本 幸子）

☆参加申し込み方法 ※事前申し込みは8月31日までをお願いします。

事前登録：会員5,000円 非会員6,000円 学生（大学院生・研修生は除く）1,000円

当日参加：会員6,000円 非会員7,000円 学生（大学院生・研修生は除く）2,000円

振込先【口座名義】第13回日本生殖看護学会学術集会 *振込用紙はございません

●ゆうちょ銀行から【銀行名】郵貯銀行【記号】15430【番号】34244001

●ゆうちょ銀行以外の金融機関から【銀行名】郵貯銀行【店名】五四八（読み ゴヨンハチ）【店番】548

【預金種目】普通預金【口座番号】3424400

◆お振込後に下記、参加申し込みアドレスより参加の申し込みをお願いします。

第13回 日本生殖看護学会学術集会 参加申し込みアドレス：sanka@jsfn13.com

ランチョンセミナーのご案内

会場座席数に限りがあります。先着230名に昼食をご用意します。学会参加の事前登録者へは優先的にランチョンチケットの配布をいたしますので、事前登録手続きをしていただくことをお勧めします。

予定数を上回った場合は、用意できかねる事をご了承ください。

学術集会概要（予定）

9：00～	開場・オリエンテーション
9：30～	開会挨拶 会長講演「未来に繋げる生殖看護」：不妊症看護認定看護師 定本幸子 教育講演「性教育での情報発信」上村 茂仁（ウイメンズクリニック・かみむら 院長） 「生殖医療の情報共有」林 伸旨（岡山二人クリニック 理事長） 一般演題：口演発表、ポスター（掲示のみ）
12：35～	ランチョンセミナー「男ごころ」永井 敦（川崎医科大学泌尿器科 教授）
13：40～	総会
14：30～	基調講演「地域・社会と未来に繋げる生殖看護」 中塚 幹也（岡山大学大学院保健学研究科 教授） シンポジウム「創ろう！岡山モデル、語ろう！生殖サポート」*看護職4名
～17：00	閉会式

☆お問い合わせ先

第13回 日本生殖看護学会学術集会事務局 担当：大月順子、岩崎香衣

事務局 E-mail アドレス：info@jsfn13.com 学術集会 HP アドレス：<http://www.jsfn13.com>

医療法人社団 岡山二人クリニック 〒701-1152岡山市北区津高285-1 TEL 086-256-7717

第10回生殖看護実践セミナー

生殖ツーリズムの現状を学び、海外で生殖医療を受けたカップルへの支援について、ディスカッションしたいと思います。皆様お誘いあわせの上、ご参加ください。

【テーマ】「生殖ツーリズムの課題と支援」

【日時】平成27年9月12日（土） 13：00～15：30（12：30～受付）

【場所】岡山国際交流センター 7階多目的ホール

【講師】日比野由利先生（金沢大学医薬保健研究域医学系 環境生態医学・公衆衛生学助教）

【参加費】会員 無料 非会員 1,000円 【定員】75名（先着）

【プログラム】13：00～13：10 挨拶・オリエンテーション

13：10～14：10 講演「生殖医療ツーリズムの課題」

14：20～14：50 グループディスカッション

14：50～15：20 全体ディスカッション

15：20～15：30 まとめ、セミナーの評価

【交通のご案内】岡山国際交流センター

JR 岡山駅から徒歩5分（JR 岡山駅2階中央改札口から全日空ホテル方面）

<http://www.opief.or.jp/oicenter/access.html>

【お申込み方法】「氏名、ご所属、会員番号、連絡先電話・FAX番号、メールアドレス」を明記の上、

9月7日（月）までにメールもしくはFAXでお申し込みください。

【お申込み・お問い合わせ先】

日本生殖看護学会教育推進委員会（担当：坂上明子）

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科 リプロダクティブヘルス看護学領域内

電話&FAX 043-226-2411 e-mail：jsfn.edu@gmail.com

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。初めて企画を担当される方、あるいは自分たちの地区でもぜひ勉強会を開催したいけれどどうしたらよいかわからない…等、お気軽にご相談ください。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を下記の連絡先までご連絡下さい。よろしくお願ひ申し上げます。

【連絡先】日本生殖看護学会教育推進委員会 担当理事 森 恵美

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学大学院看護学研究科 リプロダクティブヘルス看護学領域

電話：043-226-2410、FAX：043-226-2414

E-mail：mori@faculty.chiba-u.jp

勉強会等の運営費の助成

生殖看護の実践に関する勉強会を支援するために、平成27年度の勉強会助成の募集を行っております。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

なお、日本生殖看護学会ホームページ（<http://jsin.umin.jp/study/josei.html>）に、助成の申請に関する詳細と申請書類等が掲載されていますのでご覧ください。

これから行われる学術集会・研修会情報 (2015年7月～10月)

月	日	学会・研修会名	会場	学会 HP / 運営事務局
7月	20日～22日	ICMアジア太平洋地域会議・ 助産学術集会 (第11回) 「すべての妊産婦と赤ちゃんに 助産師のケアを」	パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)	http://www.icmaprc2015.org/refer/ header-lower.gif 第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助 産学術集会 運営事務局 (株式会社コングレ内) 〒102-8481 東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル Tel: 03-5216-5318 / Fax: 03-5216-5552 E-mail: icm2015aprc@congre.co.jp
7月	25日～26日	日本女性心身医学会 (第44回) 「女性性とレジリアンス」	ソラシティ カンファレンス センター (東京都千代田区)	http://www.k-con.co.jp/44jspog.html 株式会社ケイ・コンベンション 内 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-27-2 山本ビル2階 Tel: 03-5367-2382 Fax: 03-5367-2187 E-mail: 44jspog@k-con.co.jp
8月	29～30日	日本思春期学会 (第34回) 「命の大切さについて考える」	ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター (滋賀県大津市)	http://www.pw-co.jp/jsa2015/ 滋賀医科大学 地域周産期医療学講座 〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 Tel: 077-548-2447 Fax: 077-548-2393 E-mail: jsa2015@belle.shiga-med.ac.jp 事務局長: 石河 顕子 (産科学婦人科学講座 助教) 事務担当: 寺田 弥生 (地域周産期医療学講座 秘書)
9月	5～6日	日本家族看護学会 (第22回)	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 (神奈川県小田原市)	http://jpp3.jp/jarfn22/ 〒250-8588 神奈川県小田原市城山1丁目2-25 国際医療福祉大学小田原保健医療学部 Email: family-22@jpp.co.jp
9月	12日	不妊症看護認定看護師ポスト コース講座 「生殖医療の法制化をめぐる課 題—民法の立場から (仮)」	岡山国際交流センター2階 国際会議場 (岡山県岡山市)	http://edu-sk.luke.ac.jp/course/ detail/58/
9月	13日	日本生殖看護学会 (第13回) 「地域・社会と未来に繋げる生 殖看護」	岡山国際交流センター (岡山県岡山市)	http://www.jsfn13.com/
10月	11日	日本性科学会 (第35回)	埼玉県県民健康センター (埼玉県 さいたま市)	http://www.l4.plala.or.jp/jsss/ seminartop.html 第35回日本性科学会学術集会事務局 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
10月	10日～11日	日本遺伝看護学会 (第14回) 「つなげよう ひろげよう 遺伝看護」	熊本市医師会館 (熊本県熊本市)	http://idenkango.com/05/gakkai014.html 熊本大学大学院生命科学研究部 臨床看護学分野 中智恵子 〒862-0976 熊本市中央区九品寺4丁目24-1 Tel/Fax: 096-373-5480 E-mail: kukinaka@kumamoto-u.ac.jp
10月	16日～17日	日本母性衛生学会 (第56回) 「つないでいこう未来への母 性医療 ～イーハトーブからの メッセージ～」	マリオス (岩手県盛岡市)	http://bosei56.umin.jp/outline.html 有限会社 ヤマダプランニング 〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1丁目5-5 Tel: 019-635-6011 Fax: 019-635-6033 E-mail: bousei56@yamada-planning.co.jp
10月	17日～21日	American Society for Reproductive Medicine (ASRM) 2015 Annual Meeting	ボルチモア コンベンション センター (米国, メリーラ ンド州, ボルチモア)	http://www.asrm.org/ASRM2015/

もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいる患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや価値観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

なお、詳細は学会ホームページをご覧ください。



理事会報告



第2回理事会

日時：2015年3月13日（金）

場所：聖路加看護大学 本館5階506室

出席者：野澤、上澤、森^明、實崎、橋村、菅野、村本、

清水、森^恵、岸田、定本（オブザーバー）

【報告事項】

1. 第13回日本生殖看護学会学術集会：日程、テーマ、広報活動などの進捗状況を報告。
2. 理事長：第14回すこやか親子21推進協議会総会の出席、今後の課題を報告。
3. 広報委員会：NL発行計画、広報活動計画を報告。
4. 教育推進委員会：第10回生殖看護実践セミナーのテーマ、講師等の計画を報告。
5. 実践開発委員会：横浜市妊活セミナー 不妊スペシャリスト相談の講師派遣を報告。
6. 編集委員会：学会誌発行に向けての進捗状況、オープンアクセス検討状況を報告。
7. 将来検討委員会：平成27年度研究助成制度、学術集会・研修会情報の広報計画を報告。
8. 総務：会員管理、ホームページ管理、選挙管理

委員会活動を報告。

9. 看保連対応WG：第1回看保連あり方検討委員会および日本生殖医学会との診療報酬に関する意見交換を報告。

【審議事項】

1. 入会審査：16名の入会、1名の退会を承認。
2. 実践開発委員会：相談員派遣相談料として謝金がある場合の対応、マニュアル変更を承認。
3. 日本看護系学会協議会の役員候補者となる被選挙人の推薦者1名を承認。
4. 学会将来構想の中心課題の取り組み方：将来構想の短期目標4点が提案され、学会員へのサービスに向けて、学会としてニーズ把握に努めることになった。
5. 健やか親子21（第2次）の活動参加の継続、取り組みたい活動テーマの承認。
6. 看保連対応WG：平成28年度診療報酬改定に向けた要望書に関する検討において、看保連を通じ国に対し「不妊症指導管理料の新設」の要望を出すことを承認。

理事および監事選挙ご投票のお礼

新緑の季節となりました。ニュースレターNo.40号（2015年2月）で告示されたとおり、日本生殖看護学会理事および監事の選挙を実施いたしました。会員の皆さま、年度初めのお忙しい中ご協力くださり誠にありがとうございました。当学会の選出規程に則り厳正に開票し、後日当選結果をお知らせいたします。

選挙管理委員会：青柳 優子、朝澤 恭子、大野 雅代

事務局からのお知らせ

1. 第13回学術集会、編集委員会への問合せは、それぞれの事務局に直接お願いいたします。日本生殖看護学会への問い合わせ、会員に伝えたい情報、HP、ニュースレターに関するご意見・ご希望等ありましたら、E-mail もしくは Fax で、気軽にご連絡ください。
2. 2012年度より、学会の年会費は8,000円になっております。会費納入は、できるだけお早めに、金額をお間違えなく、お願い申し上げます。
3. 異動・転居された方は必ず事務局までご連絡願います。ニュースレター、学会誌の送付はメール便を使用しているため、郵便と異なり、転送されません。住所変更届は学会ホームページからダウンロードできます。
4. 会員数352名（2015年3月13日現在）です。学会の活性化を一層はかるため、生殖看護に関心のある、お知り合いの方にぜひ入会をお誘いください。入会案内および入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

次号の原稿締切日

ニュースレター第42号の原稿締切日は、2015年9月28日（月）を予定しています。学術集会や研修会等への参加報告、勉強会開催のお知らせなど、会員の皆さまへの周知の場としてご活用ください。

編集後記

今年は5月に入ったとたんに真夏日を記録し、6月は入梅で体調管理が難しい季節となっております。皆さまどうぞお身体ご自愛の上、9月には岡山で大いに学び、大いに親交を深めましょう！

広報委員：上澤悦子、實崎美奈

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing: JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2293

E-mail: jsin@slcn.ac.jp

ホームページ <http://jsin.umin.jp>

口座番号：00170-2-333414

加入者名：日本生殖看護学会